

新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第2回) 審査委員会 議事要旨

日 時：平成24年10月16日(火) 13:00～14:30

場 所：ヴェルサール秋葉原 地階 ホール

出 席：審査委員会 安藤委員長、鈴木委員、岸井委員、内藤委員、安岡委員、小倉委員、
都倉委員、河野委員

技術調査員 和田専門アドバイザー

文部科学省 山崎参事官(技術支援)

<議事：新国立競技場基本構想国際デザイン競技の二次審査対象作品選定について>

○各委員の仮推薦作品番号及び作品毎の仮推薦数について確認し、一次審査の進め方及び選定方法を審議し、二次審査対象作品11作品を選定した。・・・(資料1、資料2)

[資料2の概要] - 過半数以上：6作品、
2～4票：15作品、
1票：7作品、
0票：18作品

○選定過程の概要

- ・推薦の無い18作品について、選定しないことを決定。
- ・審査委員の過半数(5票以上)が推薦している6作品(作品番号2、12、17、24、34、37)について、二次審査の対象作品とすることを決定。
- ・複数名の推薦を受けていない7作品については選定の対象とせず、複数の審査委員から推薦を得ている作品を審議の対象とすることを決定。
- ・2票から過半数未満の15作品について、提案の内容、技術調査の結果を改めて確認。
- ・デザイン競技の提案としてユニークな作品があっても良いのではないかと意見から、作品番号9、[]を対象として審議され、作品番号9を選定することを決定。
- ・周辺環境に配慮されたランドスケープ型の提案があるべきではないかと意見から、作品番号[]、26、[]、35を対象として審議され、作品番号26、35を選定することを決定。
- ・「文化」の面から特に音響効果の高い作品を選定してはどうかとの意見から、作品番号32を選定。
- ・技術調査の確認結果で、全ての項目について求める条件・実現性が確認された作品を、選定

してはどうかとの意見から、作品番号 33 を選定することを決定した。

○二次審査対象作品選定結果

- ・ 11 作品（作品番号 2、9、12、17、24、26、32、33、34、35、37）に決定。

○二次審査対象作品の応募者発表

- ・ 事務局にて保管している著作者証を開封後、応募者情報と照合し、河野委員より「作品番号」「著作者登録番号」「企業名」「代表者名」「企業所在地」を発表。

○一次審査結果の公表

- ・ 公表予定日（10月18日(木)）及び公表内容（外観及び内観パースのみ）を説明。・・・(資料4)
- ・ 関連敷地の提案等、提案者に確認が必要な作品の対応は、事務局で行うことが了承され、確認後に公表することを決定。場合によっては、公表が遅れることもあり得る。

○今後の審査の進め方

- ・ 河野委員より、事前評価及び二次審査から最終公表までの流れを説明。・・・(資料5)

○その他

- ・ 二次審査対象作品の応募者の資格要件を確認すること、また、指名停止、法令違反等について確認を行うことが必要であるとの意見があり、事務局が対応することを決定。

以上

**新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第2回) 審査委員会 議事録**

日 時：平成24年10月16日(火) 13:00 ～ 17:00

場 所：ヴェルサール秋葉原 地階 ホール

出 席：安藤忠雄委員長、鈴木博之委員、岸井隆幸委員、内藤廣委員、安岡正夫委員、小倉純二委員、都倉俊一委員、河野一郎委員

技術調査委員 和田章専門アドバイザー

文部科学省 山崎雅男参事官(技術支援)

議題 新国立競技場基本構想国際デザイン競技の二次審査対象作品選定について

《以下議事録》

【河野理事長】 新国立競技場基本構想国際デザイン競技(第2回)審査委員会を開催します。7月20日から国際デザイン・コンクールを募集開始して、9月25日までに世界から数多くのアイデアが提出されております。本日は、第一次審査として作品を選定していただきます。審査に先立ち、委員をご紹介します。

●河野理事長より出席委員の紹介

安藤忠雄委員長、鈴木博之委員、岸井隆幸委員、内藤廣委員、安岡正夫委員、小倉純二委員、都倉俊一委員、河野一郎委員

●河野理事長より列席者の紹介

- ・技術調査委員 和田章専門アドバイザー
- ・文部科学省 山崎雅男文教施設企画部参事官

安藤委員長に一言ご挨拶をいただきます。

【安藤委員長】 今日は、この中から10案を選ぶということで、しっかりと討議したいと思っています。思い切った意見で、妥協のないところでお話できればいいと思っています。よろしくお願いします。

【河野理事長】 ありがとうございます。それでは初めに、配付資料を確認します。

●事務局(福手課長)による資料の確認

【河野理事長】 それでは早速、選定に入ります。資料1は、予備審査の各委員の仮の推薦作品の集計結果です。資料2は、推薦数の多い順に並べています。どなたからも推薦がない作品が下のほうとなります。推薦獲得数を2つ目のところに書いています。それをご確認いただいた上で、この中から10作品程度を選ぶことになります。

まず、推薦を受けていない作品については、予備審査の段階で既にご覧いただいておりますので、今日の対象から外すということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【河野理事長】 予備審査の段階で推薦が無かったものを外すと、残りが28作品になります。

次に、過半数の5票以上を獲得している作品は、この後議論がいろいろあったとしても残ると思いますので、この6作品は候補と取り扱いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【河野理事長】 残り22作品についてどのように扱うかというご意見を伺いたと思います。まずは、一人の推薦しか受けてない作品についてどうするかということです。複数の方から推薦いただいている作品を対象とするというのも1つの案かと思います。反対がなければ、複数の推薦をいただいている作品を対象にしてはどうかと思います。

【安藤委員長】 はい、結構です。

【河野理事長】 そうしますと、推薦者数が4、3、2の作品を対象に、先ほどの6作品に加える4作品前後を検討することになります。山崎参事官からそれぞれ紹介をお願いします。

【山崎参事官】 [REDACTED] 白い水玉をモチーフとした作品です。開閉式の屋根はケーブルで開閉する方式に加え、ピッチが上がって屋根にふたをするような提案です。可動席は全体にスライドして臨場感が出てくるもので、フィールドも昇降するようになっています。技術調査で×はついておりませんが、屋上に人が上がれるようになっているため、構造は少し検討する必要があるということです。

[REDACTED] は埋め込みの案です。開閉式の屋根は、ねじって膜で閉める方式です。可動席については提案がありません。フィールドが上下するような提案ではありません。技術調査では、20メートル掘り下げた計画の工期を考えると若干厳しいのではないかと考えており、×に近い△でした。

は提案者から というサブタイトルがつけられています。開閉式の屋根は二重の膜で閉まる方式です。可動席はロールバック方式で、普段仕舞われているのを引き出して使うような、サッカーのピッチのすぐそばまで来る方式です。フィールドは昇降しません。技術調査では、全体が緑で覆われていること、人も上がれるようになっている関係上、構造をもう少し強くする必要があるのではないかということで、△です。

は、壁面が木になっています。屋根がソーラーパネル、開閉はスライド方式で二段階に開きます。真ん中が開くと同時に南側が開放され、ピッチに光をたくさん当てようという方法です。可動席はロールバック方式。イベント時にはピッチを床下に格納する提案です。技術調査では、これは都営アパートのところを活用していないので、応募者と少し調整する必要があるのではないかということです。

も屋根に太陽光パネルを乗せた提案です。開閉式屋根は上下から蛇腹が出てくるような開閉の仕方です。可動席は、1層目が前に出てくるスライド方式を採用しております。イベント時に、ピッチを床下に格納できる方法を提案しています。技術調査の結果は、全て○がついています。

も若干埋め込んでいるタイプですが、開閉式の屋根は、ケーブルで膜を周りから真ん中に向かって閉めていくという方法です。可動席は提案がありません。ピッチが上下する計画ではありません。JRの線路を渡って、新宿御苑の方まで歩行者通路を設けています。

は、応募者がサブタイトルで、と書いています。開閉式屋根の方法は、折りたたみで閉まる方法と、ピッチが上がって四角い穴をふさぐという提案です。ピッチが上がったら下でイベントができるということだと思います。可動席はロールバック方式です。技術調査では、ピッチを上からつり上げるような方法のため、かなり荷重がかかるのではないか、もう少し強くする必要があるのではないかということと、地下を15メートル程度掘るため、工期も少し工夫が必要ではないかということです。

以上で、4票、3票の作品は終わりました。次は、2票の作品説明です。

は というサブタイトルがついています。開閉式の屋根は、ケーブルで透明なパネルをつり下げていて、回転するようになっています。パネルが水平になると、全部屋根が閉まるという構造です。可動席の提案はありません。フィールドが可動する提案はありません。技術調査は、屋根が小割で開閉する機構なので、耐久性、メンテナンス、耐風性に検討が必要ということと、メンテナンス通路等が必要になってくる

のではないかとのことでした。

は、屋根がスポーツ公園のようになっていて、人が上がって競技できるという提案です。可動式の屋根は、上に見えるレールを走って膜が閉まる構造です。可動席の方法は不明ですが、少し引き出した感じは見えます。フィールドが上下する提案はありません。技術調査では、これだけ大きなスポーツ公園を屋根に乗せる、人を乗せるとなると構造がかなり大変で、今のままでは難しいのではないかとということで、構造面で×となっています。事業費もかなり増加するであろうということで、応募者からも1,300億円を超過した提案がされていますので×としました。

は下部構造が四角で、その上に楕円が乗っています。開閉式の屋根は小割になって、その一つ一つが膜で閉まるという構造です。可動席は下の2層だけ構造が別になっていて、ゴール側2面が出ることになっています。イベント時にはピッチが床下に格納される機構です。技術調査の結果、屋根がフラットかつ長手方向は長スパンを飛ばしているのですが、水平梁で届く限界を超えているのではないかとということで、構造計画は×となっています。それから、26メートル掘るため工期内での完成が難しいのではないかとということで、限りなく×に近い△と評価されています。

はひし形のシェルを積み上げたような外観をしています。屋根の中に4枚の可動屋根が仕込まれており、それが動いて閉まる形になっています。可動席は、おそらく奥のスタンド全体が手前に移動するという、かなり大がかりな構造になっています。フィールドは昇降しません。技術調査では、東京都の体育館のサブアリーナが撤去されていて条件に合いませんので、もしこれを採用すると、応募者との調整が必要になるということで、△(×)となっています。

は屋根が3分割され、それが各々下りてきます。そのうちの1つは、公園の屋根のようになっていて、可動席は提案がありません。ピッチが上下する提案もありませんでした。技術調査では、3分割された屋根がかなり長い距離、しかも曲線で下りてくるので、構造、メンテナンス性に気を付けたほうがいいという評価です。

も若干埋まっているタイプです。開閉式の屋根は、屋根全体がサッシのようなもので覆われており、一つ一つロールスクリーンのように開閉するシステムです。どんなあけ方でもできると提案がありました。可動席はロールバックです。ピッチが昇降する提案はありません。技術調査では、屋根が細かく小割で多数ありますので、メンテナンス、機構を検討する必要があるという評価です。

は、壁面が緑化されている提案です。開閉式の屋根に細かいサッシがあり、一つ一つガラスで開くという提案です。可動席は引き出して使う方法です。フィールドは昇降する提案ではありません。技術調査の結果、これも多数の開閉式の屋根の構造になっていますので、メンテナンス性などを検討する必要があるという評価となりました。

は、観覧席の周りにのようなものがついているデザインです。屋根の開閉機構は、右下のほうにある丸い屋根が上がっていつて屋根を閉めるという格好です。屋根が下がっているときには、公園になるという提案です。可動席は、ピッチのそばまでロールバック方式で席がせり出してきました。ピッチはイベント時には床下に格納できる方式です。

技術調査では、もう少し構造を強化するなり、円周方向にもう少し強くする必要があるのではないかとしています。そうすると、かなりデザインが変わってしまう可能性もあるので、△(×)と評価されています。

【河野理事長】 これからの進め方は、得票の多い方から検討するのか、あるいは同時に特徴で選ぶのか、委員長のご意見をお願いします。

【安藤委員長】 まず、これから10案選ぶわけですね。

【河野理事長】 はい。

【安藤委員長】 最終的には1つ、2つ選ぶのですか。

【河野理事長】 先ほど6案選んでいただきましたので、残り4案か5案です。少し許容誤差はあると思います。

【安藤委員長】 まず10案まで選ぶということは、今の説明にあった推薦が2点入っている作品の検討が必要ですね。

【河野理事長】 そうですね。

【安藤委員長】 皆さんで、残りの中から選びましょう。もう一人、作品に手を挙げて決まるくらいでしょうか。

【◎委員】 これを含めて10案ですから、ここからが重要ですね。

【安藤委員長】 上位の作品は決めてしまいましょう。

【河野理事長】 上位の6作品は過半数をとっていますので、この6作品は候補とされます。

【安藤委員長】 残すということですね。

【河野理事長】 はい。その後、4案程度を目安にどう決めていくかということです。

【安藤委員長】　そうですね。今は幾つも残っておりますから。

【河野理事長】　順番に決めていくかどうかです。

【安藤委員長】　誰か、これは絶対おもしろいよ、これはどうしてもという強い意見があればお願いします。

【◎委員】　私も同感ですが、技術的に全く無理というか、技術的に難しいものは除いた方がいいのではないのでしょうか。

【河野理事長】　それもお意見だと思います。 それでは、技術的にまず難しい作品について、この段階で省くということではいかがでしょうか。

【安藤委員長】　よろしい。

【河野理事長】　×の付いた作品番号について、[]は×でした。

【安藤委員長】　9番は難しいですね。

【山崎参事官】　9番と[]は、構造的に難しいとして、×とされています。

【安藤委員長】　9番と[]は難しいでしょう。

【◎委員】　[]は、水平の網みたいですが、弦を張れば屋根は可能になるのではないのでしょうか。観客席が栈敷みたいでこの案はおもしろいと思っているので、屋根だけが駄目だという理由で落選するのは残念です。9番は夢のようなメルヘンチックで、現実的には難しいかもしれない。[]をここで外すことについて、和田先生の御意見はいかがでしょう。

【和田専門アドバイザー】　このままでは無理だろうということですが、上にアーチを付けて対応できると思います。

【河野理事長】　デザインが変わってしまわないかということもあります。

【和田専門アドバイザー】　そうですね。それでもよければということです。

【河野理事長】　では、9番は対象から外されます。それ以外に、工期の点で問題があった作品がありましたね。

【山崎参事官】　工期は、[]と[]です。

【◎委員】　[]は駄目なのですか。

【河野理事長】　工期が×な作品は、かなり実現が厳しいと思います。

【◎委員】　では、[]は落選ですね。

【◎委員】　9番は委員長が○を付けているので、意見を聞いたほうが良いと思います。

【安藤委員長】　コスト的にも技術的にも大変難しいけれども、10案の中には1つ、

もうとんでもない作品があってもいいのではないかという思いで入れました。断面図を見ると、あり得ないスケールのものです。全部屋根をかけて、上に人工地盤があつてというもので、あり得ないけれども、こういう作品も10案の中に1つあってもいいと思いました。実現可能性は低いと思いますが、同じような10作品で競争するよりも、1つ奇抜な作品があつていいと思います。

【河野理事長】 デザイン・コンクールですので、非常に特徴のある作品を選ぶということです。強くご推薦のあるものについては、検討していただいたほうがいいと思います。今は委員長から9番について推薦がありました。

【安藤委員長】 斜面でずっと上へ上がっていく提案がありましたね。いわゆる古墳型の案です。

【河野理事長】 古墳型は[]です。

【安藤委員長】 古墳型も、スケジュール的、技術的に難しいと思いますが、1つは残したほうがいいと思いました。

【河野理事長】 [] 26番、35番のあたりでしょうか。

【◎委員】 []はどうですか。

【山崎参事官】 []も、どちらかというところとそう。5つぐらいですね。緑の中に埋もれているというところが共通しています。

【安藤委員長】 どれも大きな穴が開いていますね。

【河野理事長】 得点は低いけれども、特徴があるということが共通点です。

【安藤委員長】 []はスタイル的に、スケール的に、私の思いとは全然違います。

【河野理事長】 古墳型と、ランドスケープ型とはちょっと違うということでしょうか。

【安藤委員長】 違いますね。

【河野理事長】 では、[]は外します。

【安藤委員長】 よろしい。

【河野理事長】 それでは、[]、26番、35番、[]の中で極めて特徴的な作品を選ぶということでしょうか。

【安藤委員長】 これは特徴的です。かなり反響があるでしょう。

【河野理事長】 そうすると、意見が多いのは35番、もう一つは[]の[]でしょうか。

【◎委員】 []は可動式観客席などの提案がないので、どう評価するのかと思いま

した。

【河野理事長】 それでは、26番でいかがでしょうか。

【安藤委員長】 よろしい。

【河野理事長】 文化の視点で特徴的な作品への推薦があればご意見ください。

【◎委員】 この中で唯一、音響・照明、巨大なパネルで吸音板を使うという説明があるのは32番です。ただ、こういうことは設計の段階で取り入れられるのであれば、結構です。今回は造形美で選ぶのでしょうか。

【河野理事長】 点数の高い6点は、かなり現実的なことを踏まえて選んだ作品です。デザイン競技ですので、委員長から特徴のある作品を残してはどうかという意見があり、文化利用の視点から1つ選んではどうかと受け取っています。

【◎委員】 上位の作品で、私の推薦意見が反映されていますので、非常に満足です。

【河野理事長】 32番は何か問題があるのでしょうか。

【和田専門アドバイザー】 32番の構造は非常に軽快過ぎて、このままではとても建てることはできないという印象です。

【河野理事長】 現実的な問題であれば、古墳型などもあまり現実的ではありませんし、◎委員と◎委員から、それぞれ一つ選んでいただくのがよいのではないかと思います。判断は委員長にお任せします。

【安藤委員長】 賛成します。

【河野理事長】 では、32番を加えます。そうすると、26番、35番、9番、32番でちょうど10作品になります。◎委員からご意見ありますか。

【◎委員】 私の推薦する作品も、やはり上位に入っています。スポーツ利用に関わる可動式観客席やフィールド可動方式などは、上位作品でカバーされています。

【河野理事長】 総合的に6作品の中に入っているというご意見ですね。残りの4作品には、委員長提案で特徴のある作品、利活用のグループから推薦の作品が入っています。委員長、これで10作品ですが、さらに加えた方がいいという作品があれば、各委員から推薦をいただきたいと思います。

【安藤委員長】 これで10作品を発表しますが、同じようなパターンばかりではなく、とんでもない作品もあっていいかと思いました。今のところ、結構バラエティーに富んでいます。順番はともかく、非常にシンボリックな作品、技術的な要素の多い作品、エンターテインメントを行える作品も含まれています。和田先生にお伺いしたいのですが、かな

り巨大なものが、3分の1程度のスケール感ですと構造は納まっているように見えますが、構造的にどうでしょうか。

【和田専門アドバイザー】 あまり我々が最初から厳しく書くべきではないという共通認識の元で作業したので、実際に建てる段階になれば構造は少し変わるかもしれません。安藤先生がおっしゃるように、小さなスケールなら可能でも、大きなスケールでは難しいことはあります。カマキリやバッタは細い足でも十分なのに、ゾウは何であんな太い足が必要なのかということですぐわかるとおりです。かなり考えて設計されているなという作品もありました。

【安藤委員長】 隣にある槇先生が設計した体育館とは、大きさが違いますからね。

【和田専門アドバイザー】 [REDACTED] が、最初の設計時点では皆できると思っていたのに、いざ作ろうとしたら構造的にとんでもないことになったという事例はあります。

【安藤委員長】 今の千駄ヶ谷のスタジアムでも、横に行ったら大きいですよ。

【河野理事長】 相当威圧感がありますね。この段階はデザインを選ぶということで、現実的なことも踏まえながら検討しました。次の段階では、現実性を含んだ最終審査になります。先ほど議論いただいた10作品を次の段階に進む候補としてよろしいでしょうか。

【◎委員】 もう一度確認していただけますか。

【河野理事長】 順不同で17番、34番、2番、12番、24番、37番、26番、35番、9番、32番です。委員長、これをもって10作品とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【安藤委員長】 よろしい。

【河野理事長】 次に、選定された10作品について、応募者情報と照合します。この後、作品について公表する段階になります。その際、デザイン以外の部分について、どのように取り扱うかを議論いただきたいと思います。具体的には、現場を見ていない応募者もかなりおられるので、ここは入れてほしいというところが少し欠けていたり、逆に膨らみ過ぎていたりする部分があります。委員長、このような部分はどのように対応いたしますでしょうか。

【安藤委員長】 敷地を見ていない応募者が大勢いると思います。敷地条件を踏まえて、どう考えるかというメールを送ってもらうなどしたほうがいいと思います。

【河野理事長】 では、しかるべき対応をするということで、公表の仕方につきまして

は、委員長と事務局にお任せ願えるでしょうか。予定としては、パース等々を出すことになると思います。

【安藤委員長】 よろしい。

【河野理事長】 ところで、技術審査で全部○だった作品が1つあります。

【◎委員】 そうですね。

【河野理事長】 その1つが10作品に入っていない。

【◎委員】 33番ですね。

【◎委員】 全部○ですね。

【河野理事長】 これは◎委員も推薦している作品で、技術審査で全て○となった作品はこれだけです。◎委員が強く推薦されれば、11作品になっても問題ない状況ではあります。

【◎委員】 ソーラーパネルが全面に出ているのは、特徴があると思いました。

【安藤委員長】 実際には、ほとんどの案はソーラーパネルを導入すると思いますが、11作品となってもいいと思います。審査の流れの中で、この案も入れておこうということになって11作品になったのなら、それでいいと思います。

【河野理事長】 それでは、33番も候補とします。

【安藤委員長】 よろしい。

【河野理事長】 先ほどご推薦いただいた作品の照合が終わりましたので、読み上げます。

2番、企業名が、Cox Architecture。代表者名が、Alastair Ray Richardson。オーストラリア。

9番、POPULOUSという企業で、代表者名が、ROD SHEARD。イギリス。

12番、UNStudio / Yamashita Sekkei。代表者名が、VAN BERKEL EN BOS。オランダ。

17番、企業名が、Zaha Hadid Architects。代表者名が、Zaha Hadid。イギリス。

24番、企業名が、TABANLIOĞLU Architects Consultancy Limited Company。代表者名が、İhsan Murat Tabanlıoğlu。トルコ。

26番、企業名が、DORELL. GHOTMEH. TANE / ARCHITECTS & A+ARCHITECTURE。代表者名が、Tsuyoshi TANE。フランス。

32番、株式会社梓設計。代表者名が、杉谷文彦。日本。

33番、企業名が、伊東豊雄建築設計事務所。伊東豊雄。日本。

34番、有限会社SANAA事務所と株式会社日建設計。妹島和世。日本。

35番、gmp・International GmbH。代表者が、Hubert Nienhoff。ドイツ。

37番、株式会社環境デザイン研究所、仙田順子。日本。

以上の11作品を二次審査に進む作品としてご推薦いただきました。

それでは、資料4をご覧ください。公表を18日としております。先ほどご議論いただきましたように、一部、敷地の問題等々について候補者とのやりとりが必要な部分は委員長と事務局にお任せいただくとして、公表の時期は少し後ろに下がることになりますので、ご了承いただきたいと思います。公表の方法は、日本スポーツ振興センターのホームページに掲載します。公表の内容は、作品、応募者名です。作品は、スタジアムの外観及び内観パースを公表させていただきたいと思います。続いて、資料5をご覧ください。「今後の審査の進め方(案)」についてです。今後は、外国人審査員を含む審査員の方々に、本日選定されました作品の資料をお渡しします。10月31日までに各委員が上位3作品を選定し、資料2枚目以降に添付している「評価結果記入表」にコメント等をご記入ください。各審査員からの選定結果を取りまとめ、11月7日水曜日に二次審査をしていただき、最終的に上位3位を決定する予定です。二次審査の後、各委員の審査講評の執筆等をお願いする場合があります。

【◎委員】 ここで残った応募者は、応募資格、要件は全部チェック済みでしょうか。

【河野理事長】 チェック済みです。

【事務局(福手課長)】 事務局が、提出書類を元に応募資格、会社の条件、受賞歴、設計実績等を確認しています。

【◎委員】 その確認はよろしくをお願いします。我々は、確認済みであることを前提に審査します。

【河野理事長】 最終発表前に、もう一度確認します。

【◎委員】 代表者、事務所が法的な欠格要件になっている法人はないですね。何か違反をしたとか、資格停止とか、法的制裁を受けているとか。

【事務局(福手課長)】 発表までに再度確認します。

【河野理事長】 万が一ということがあれば、審査員に連絡し、委員長と相談します。

【安藤委員長】 当初10案という話でしたが、意味のあるものをもう1案挙げようと、11案になりました。私は、これは意義があると思います。同時に、これから最後の1案を選びます。次の審査日までに、私たちは1人ずつ自分なりにチェックすることになりま

す。資格要件は事務局で確認します。

【河野理事長】 11月7日に予定される二次審査で最終案を確定することになります。

【安藤委員長】 今週の木曜日に、事務局と共にノーマン・フォスター委員とロジャース委員に、直接この案や条件をお見せして、それぞれにも順位を付けていただくため、ニューヨークに行きます。私の事務所の所員と、山崎参事官に行ってもらおうと思っています。

【河野理事長】 次回の開催場所はTEPIA、時間は11時からを予定しています。本日は、大変貴重な、また実り多いご意見を討議していただきましてありがとうございます。

—— 了 ——

新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第2回) 審査委員会資料

平成24年10月16日(火)

独立行政法人日本スポーツ振興センター

新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第2回) 審査委員会 議事次第

1. 日 時 平成24年10月16日(火) 13:00~17:00

2. 議 事

新国立競技場基本構想国際デザイン競技の2次審査対象作品選定(1次審査)

<資料>

資料1 仮推薦作品一覧

資料2 仮推薦得票数上位作品一覧

資料3 技術調査の確認リスト(別冊)

資料4 1次審査結果の公表について(案)

資料5 今後の審査の進め方(案)

参考資料1 新国立競技場基本構想国際デザイン競技 審査のスケジュール

假推薦作品一覽

[illegible]

一次審査結果の公表について（案）

1. 公表日時（予定）

- ・平成24年10月18日（木）

2. 公表の方法

- ・日本スポーツ振興センターのホームページに掲載

3. 公表の内容

一次審査で選定された作品（二次審査対象作品）を公表

（1）応募者について

作品番号、著作者登録番号、企業名、代表者名、企業所在地

（2）作品について

スタジアムの外観及び内観パースを公表

※ 本デザイン競技は、新国立競技場のデザインを主体に選定していますので、現状等と乖離しているものがあり、今後、修正することを前提としていることを記載する。

今後の審査の進め方(案)

予備審査

- 審査員が個々に提出された全ての作品を確認し、推薦する作品を仮選定する(推薦する作品数は制限しない)。

日時:9月26日～10月12日
場所:ベルサール渋谷ガーデン

・仮推薦結果を集計

1次審査

1. 各審査委員の推薦作品や技術調査の結果等を参考に、推薦する作品を再確認する(仮推薦作品の変更も可)。

日時:10月16日(火)
13:00～17:00
場所:ベルサール秋葉原

2. 審査委員の間で協議し、推薦数が上位の作品及び審査委員が強く推薦する作品の中から、2次審査に進む10作品程度を選定する。

- ・1次審査結果の公表
・1次審査で選定された作品(10作品程度)の資料を審査委員(外国人審査委員を含む)に送付

事前評価

- 1次審査で選定された10作品程度のうち、各審査委員が順位付け(1位～3位)を行い、上位3作品について評価(A・B・C・D)及びコメントを記載する。(10月31日締切)
→別紙1「評価結果記入表」に記入

1次審査後～2次審査前
各審査委員が個別に評価

・評価結果を集計

2次審査

- 各審査委員の評価・順位付けを参考に審査委員間で協議し、最終順位を決定し、審査委員会の講評を取りまとめる。
→別紙2「審査委員評価結果一覧」

日時:11月7日(水)
11:00～16:00
場所:TEPIA

・各審査委員が講評を執筆

公表

- HPで作品を公表するとともに、委員会としての講評及び各審査委員の講評を公表。

〇〇委員

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

応募者名

- ・1次審査で選定した10作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン		
スポーツ・イベントの際の実現性		
技術的チャレンジ		
実現性		

その他コメント
(評価すべきポイント等)

※10月31日(水)までに下記FAXへ送付願います。
FAX番号:03-5410-9135

〇〇委員

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

応募者名

- ・1次審査で選定した10作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン		
スポーツ・イベントの際の 実現性		
技術的チャレンジ		
実現性		
その他コメント (評価すべきポイント等)		

※10月31日(水)までに下記FAXへ送付願います。
FAX番号:03-5410-9135

〇〇委員

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

応募者名

- ・1次審査で選定した10作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン		
スポーツ・イベントの際の実現性		
技術的チャレンジ		
実現性		

その他コメント (評価すべきポイント等)	
-------------------------	--

※10月31日(水)までに下記FAXへ送付願います。
FAX番号:03-5410-9135

審査委員評価結果一覧

作品番号	応募者名																得点	順位
3	AAAAA	1			2	1						1					11	2
15	BBBBB				1			1	2				1	2		1	16	1
18	CCCCC						2										2	8
20	DDDDD	2				3	1					3					7	4
27	EEEEE														3	1	5	5
30	FFFFF											3	2				4	6
31	GGGGG	3			2	2	3							2	3		9	3
33	HHHHH									2							2	8
38	IIIII															2	2	8
39	JJJJJ											1					3	7

各順位の得点			1位	2位	3位
			3	2	1

新国立競技場基本構想国際デザイン競技 審査のスケジュール

国際デザインコンクールの流れ

審査委員会

技術調査



